第８回 国際科学技術関係大臣会合の結果について

平成２３年１０月２日
内閣府政策統括官（科学技術政策・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ担当）
国際担当

１．日　時：　平成２３年１０月２日（日）１６：１５～１８：００
２．場　所：　国立京都国際会館 Room A
３．参加者：　世界２７ヶ国の科学技術大臣等が参加
４．テーマ：　「安全・安心な社会の構築と科学技術の貢献」
５．結果概要：

古川元久科学技術政策担当大臣が議長を務め、我が国から安全・安心な社会の構築への科学技術の貢献事例を紹介後、参加国からの経験の紹介、意見交換を行った。

◯ 冒頭、古川大臣より、東日本大震災に対する世界中からの支援に対し謝辞及び８月に閣議決定された第４期科学技術基本計画に盛り込まれた２つのチャレンジ、
- 科学技術イノベーションで日本の復興・再生を図る
- 科学技術と社会の関係再構築に向けコミュニケーションの改善を図る

が紹介された。

◯ 次に、アネッテ・シャバーン　ドイツ教育研究大臣より、科学技術は想定外の事象への対応及び社会の復興において重要な役割を果たし、我々が直面している地球規模の課題に対してはグローバルな協力が必要との挨拶があった。

◯ 続いて、吉川内閣府大臣官房審議官から「震災からの復興・再生に向けた日本の科学技術政策：安全・安心な社会の構築への取組みの例」と題し、東日本大震災の経験を踏まえた安全への科学技術の貢献事例や第４期科学技術基本計画による復興・復旧の推進等について、プレゼンテーションを行った。

◯ その後、各国からの経験の紹介、意見交換が行われ、以下のような議論がなされた。
- 各国は地震や津波、干ばつ、洪水などの自然災害、感染症、人に起因する災害等、国民の安全や社会の発展、国家の持続的成長を脅かす課題を抱えており、科学技術はそれらの予測や予防、被害の軽減を実現し、安全・安心な社会の構築に重要な役割を果たすことを再認識。
- 科学技術がこれらの課題に効果的に機能するためには、各国間での経験の共有や、共通の課題に関しては国際的な共同研究を強化する等、平時より更なる技術の向上を図ることが必要。
- また、危機においてうまく機能した点、機能しなかった点を科学的に調査・分析し、将来に活かすためにも科学技術は重要。

- 他方、科学的知識に基づく「安全」と国民が感じる「安全」には乖離があり、災害時における人々の心理を理解するために、社会科学や人文科学の観点から取り組むことも必要との認識を共有。
- また、危機管理の訓練には、政府のみならず民間企業や自治体、メディア等の多様で幅広い関係者の主体的な参画を得て、危機に直面した際のコミュニケーションの素地を形成することが重要。

◯ 最後に古川大臣から、会合で紹介された安全・安心な社会の構築と科学技術の貢献の事例集を、後日取りまとめることを提案し、賛同を得て会合を終了した。

以上